

1. 太平洋側のマイワシについて

○根室市花咲港：さけます代替棒受網漁業の漁場は、花咲南沖で漁場水温は16～17℃前後であった。8月の水揚量は7月を上回り、前年を上回った(表1)。

水揚物は体長16～17cm 主体、体重60～70g 主体だった(図1、2)。

表1. 花咲港における7、8月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	5,383.8	33.0	1,688.7	61.0	0.3	1.8
8月	1,160.3	58.0	1,842.2	40.0	1.6	0.7

(以降水揚量出典:おさかなひろば)

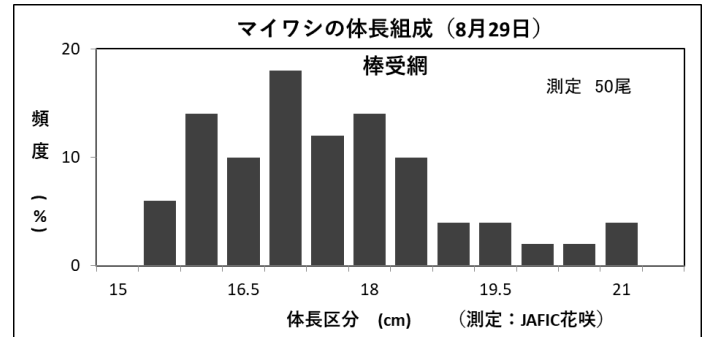


図1. 8月29日花咲港水揚のマイワシ体長組成

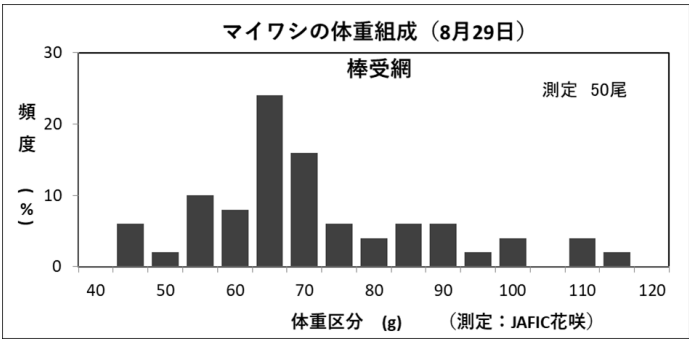


図2. 8月29日花咲港水揚のマイワシ体重組成

○釧路港：まき網による8月の水揚量は25,946.5トン、1網あたりでは平均146.6トンであった。漁場は釧路港灯台南微西53海里～南東微東18海里であり、広尾沖～釧路沖に広がっていた。漁場水温は14.3～19.6℃。釧路港水揚分は7月を下回ったものの、前年を上回った(表2)。

表2. 釧路港における7、8月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	14,586.5	32.0	37,648.9	27.0	2.6	0.8
8月	8,249.8	33.0	13,876.6	30.0	1.7	0.9

○石巻港：8月の水揚量は7月を大きく下回り、前年を上回った(表3)。まき網による漁獲はなく、定置網や底曳網による漁獲が主であった。水揚物は体長7～8cm、体重5g前後の当歳魚主体であり、7月の1歳魚体長の主体から変化した(図3、4)。

表3. 石巻港における7、8月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	6,597.3	47.0	6,897.8	37.0	1.0	0.8
8月	59.1	40.0	94.2	49.0	1.6	1.2

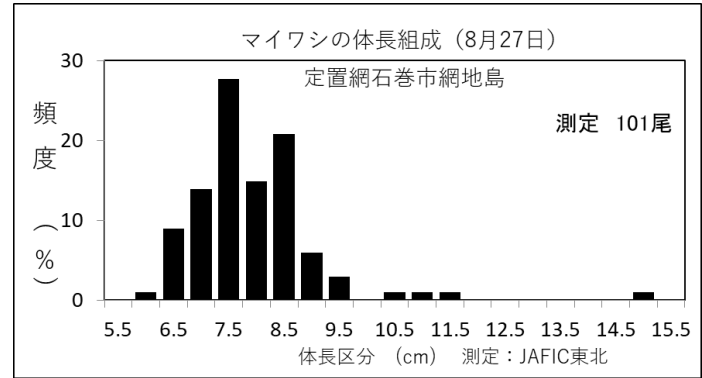


図3. 8月27日石巻港水揚のマイワシ体長組成

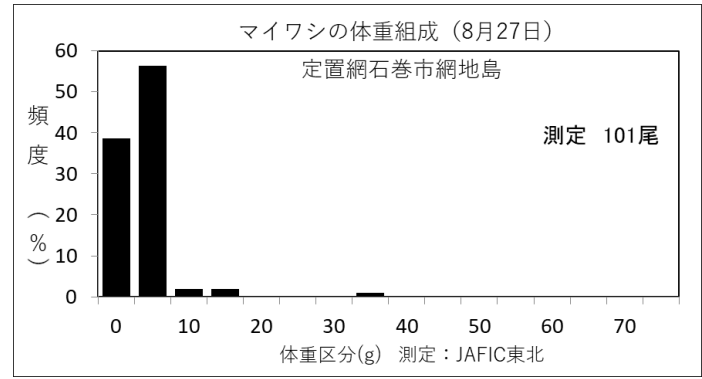


図4. 8月27日石巻港水揚のマイワシ体重組成

○銚子港：8月の水揚量は7月を大きく下回り、前年を上回った(表4)。二艘まき網による水揚が主体であった。水揚量が少なかったため、価格は6月を上回り、前年を上回った。

表 4. 銚子港における 7、8 月のマイワシ水揚量(トン)と平均
価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	7,499.7	79.0	2,658.5	117.0	0.4	1.5
8月	55.3	127.0	257.7	136.0	4.7	1.1

2. 日本海側のマイワシについて

○境港： 8 月の水揚量は 7 月を大きく下回り、前年を上回った(表 5)。水揚物の体長は 12～13cm 主体で当歳魚主体であった。

表 5. 境港におけるマイワシの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	—	—	2,679.0	62.0	—	—
8月	—	—	278.0	66.0	—	—

3. 太平洋側のさば類について

○八戸港： 8 月の水揚量は 7 月を大きく上回るとともに、前年をやや上回った(表 6)。この水揚量の増加は、8 月からまき網漁場が形成されたためである。漁場は八戸港灯台沖北東微東 15 海里～北東微北 3 海里であった。

表 6. 八戸港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

※平均価格にはスルメイカの混じりを含む

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	254.0	219.0	325.0	179.0	1.3	0.8
8月	1,905.0	283.0	2,003.7	306.0	1.1	1.1

○石巻港： 8 月の水揚量は 7 月を下回り、前年を上回った(表 7)。まき網による水揚げはほとんどなく、定置網と底曳網による水揚げが主体だった。
水揚物の体長(尾叉長)は 30～33cm 主体であった(図 5)。

表 7. 石巻港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	672.6	125.0	1,374.4	99.0	2.0	0.8
8月	154.5	210.0	502.6	144.0	3.3	0.7

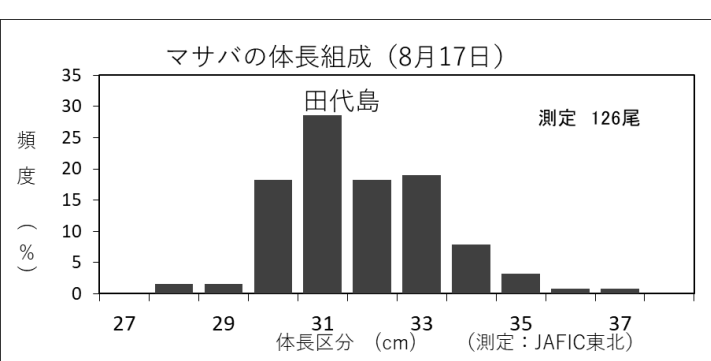


図 5. 8 月 17 日石巻港水揚のさば類体長組成

○銚子港： 8 月の水揚量は 7 月を上回るとともに、前年を上回った(表 8)。漁場は銚子沖で、二艘まき網による水揚げが主体であった。

表 8. 銚子港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	323.1	98.0	460.6	99.0	1.4	1.0
8月	163.4	97.0	899.4	86.0	5.5	0.9

4. 日本海および東シナ海側のマサバについて

○松浦港： 8 月の水揚量は 7 月を上回ったものの、前年を下回った(表 9)。7 月は対馬海域主体の操業だったが、8 月は九州西沖主体の操業であった。水揚物の体長(尾叉長)は 25cm と 31cm 前後主体であり、体重は 200g と 400g 前後主体であった(図 6、7)。

表 9. 松浦港におけるマサバの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	199.6	179.0	279.6	146.0	1.4	0.8
8月	1,112.9	173.0	318.6	155.0	0.3	0.9

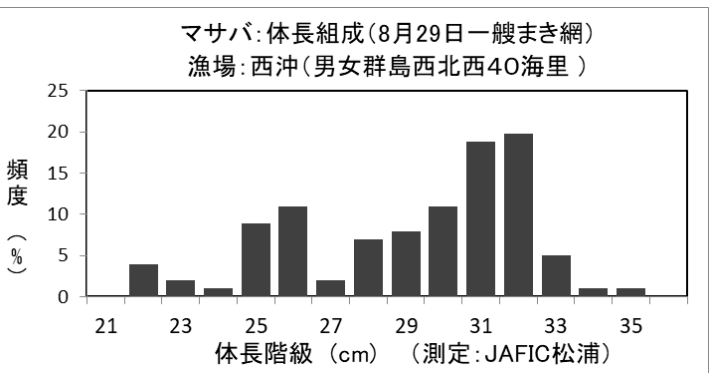


図 6. 8 月 29 日松浦港水揚のマサバ体長組成

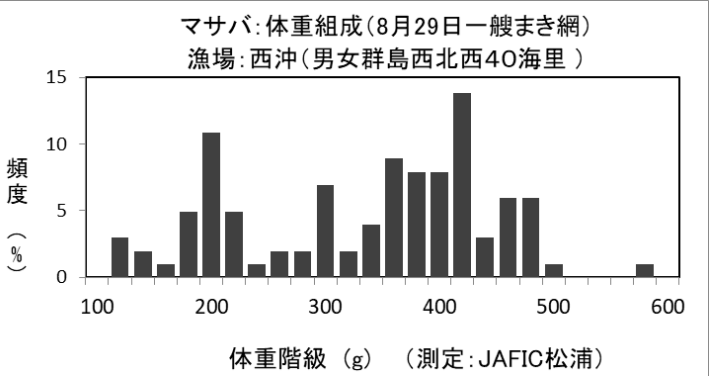


図 7. 8 月 29 日松浦港水揚のマサバ体重組成

5. 太平洋側のマアジについて

○銚子港： 8 月の水揚量は 7 月を大きく上回るとともに、前年を大きく上回った(表 10)。漁場は銚子沖で二艘まき網による水揚げが主体だった。

表 10. 銚子港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	741.9	137.0	14.4	169.0	0.0	1.2
8月	256.8	182.0	1,345.5	132.0	5.2	0.7

6. 日本海および東シナ海側のマアジについて

○境港：8月の水揚量は7月を下回り、前年を上回った(表11)。漁場は隠岐海峡周辺で、中小型まき網による操業が主体であった。水揚物の体長は19～20cm 主体で体重120g 前後主体であった(図8、9)。

表 11. 境港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	867.0	176.0	982.0	121.0	1.1	0.7
8月	219.5	131.0	549.0	216.0	2.5	1.6

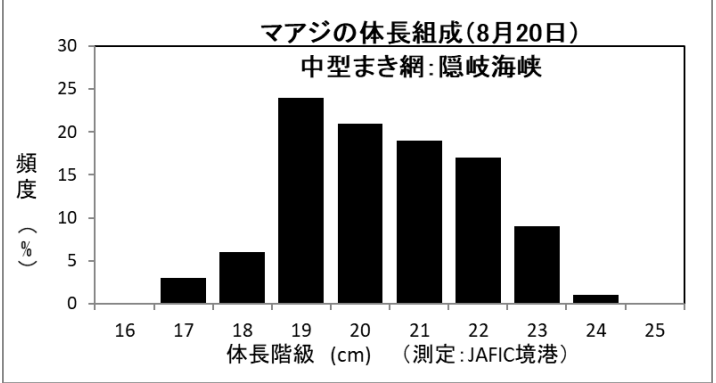


図 8. 8 月 20 日境港水揚のマアジ体長組成

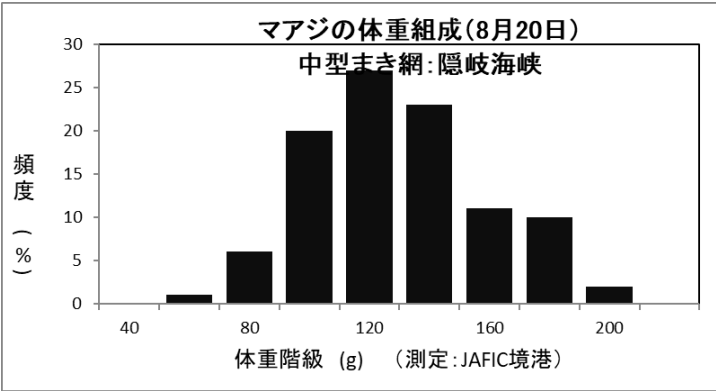


図 9. 8 月 20 日境港水揚のマアジ体長組成

○松浦港：8月の水揚量は7月を上回り、前年を下回った(表12)。7月は対馬海域主体の操業だったが、8月は九州西沖主体の操業であった。水揚物の体長は20～22cm 主体で体重120g 前後主体であった(図10、11)。

表 12. 松浦港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
7月	1,180.5	304.0	937.3	322.0	0.8	1.1
8月	1,410.8	259.0	1,186.8	224.0	0.8	0.9

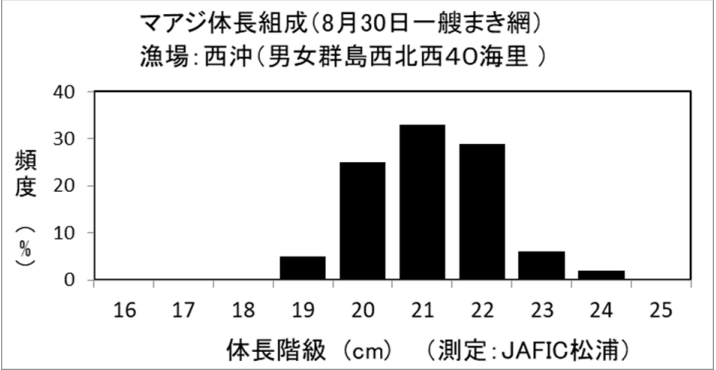


図 10. 8 月 30 日松浦港水揚のマアジ体長組成

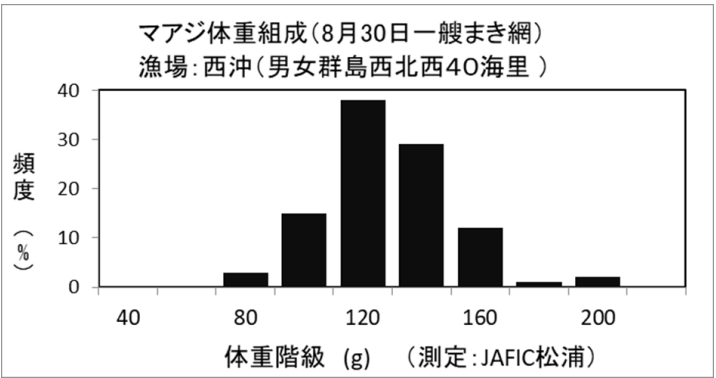


図 11. 8 月 30 日松浦港水揚のマアジ体長組成

7. まとめ

太平洋側のマイワシについて、花咲沖で操業した棒受網漁業では、8月は体長16～18cmの1・2歳魚が主体で漁獲された。釧路沖に漁場が形成されている道東まき網でも体長16～18cmの1・2歳魚主体に20cm以上の3歳魚以上も若干見られた。一方7月の石巻で見られた1・2歳魚は北上し、当歳魚が出現した。道東まき網では8月以降1日当たりの漁獲量が増加したが、群れが薄いため網数を増やした操業を行っているのが特徴だった。8月の太平洋側のマイワシは東北沖では当歳魚主体で、道東沖では1・2歳魚が漁獲されたが、群れが薄かった。9・10月に水温が下がり、花咲よりさらに東に分布しているであろう3歳以上の来遊が期待される。

日本海側のマイワシは低調であった。7月以降、当歳魚の水揚げが続いており、今後も続くと考えられる。

8月の東北沖のまき網は、さば類・スルメイカ主体の操業になった。八戸港におけるさば類の水揚げ量が前年をやや上回った。石巻では定置網と底曳網での水揚げであり、体長は31cm前後が主体であった。9月には水揚げ量が減少し、10・11月になると南下群が水揚げされると見込まれる。

銚子沖操業の二艘まきによるマアジは7月まで不調であったが、8月は7月および前年同月を大きく上回った。太平洋側

のマアジの資源は減少傾向にあり、9月以降の水揚量は前年を下回る水準で推移すると考えられる。

中西部日本海においては、8月は中小型まき網によるマアジやぶり類の水揚げが主体であった。マアジの水揚量は7月を下回ったものの前年を上回り、加工原料としての需要もあるため価格も好調であった。

東シナ海側では九州西沖海域を中心にマサバ・マアジが漁獲され、水揚量はマサバ・マアジともに7月を上回り、前年を下回った。台風等の影響で操業に支障があったものの前年の80%ほどの水揚量を維持している。今後は九州西沖主体に漁場が形成され、マサバは1歳魚が主体に漁獲されると考えられる。

(水産情報部)